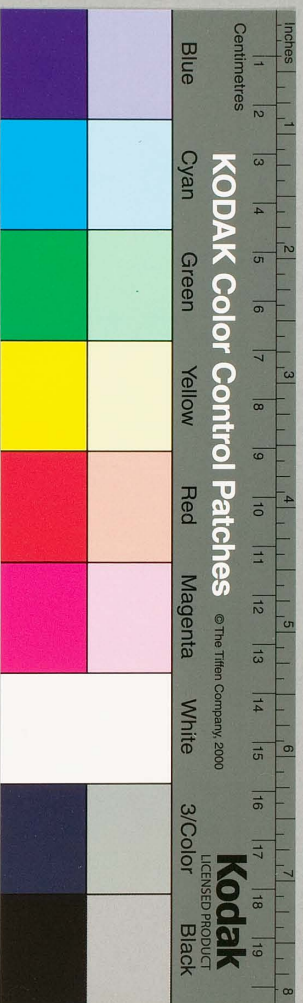


0408





攝津國  
第一宮

住吉名勝圖會

一

291.6302  
Ak  
1



大分大学  
平成 7.11-8  
4463906  
291.8302  
AK  
書  
1

石川  
藏書

住吉名勝  
會圖



喜多八重子氏寄贈

名所佳境乃世可  
多わら木にも  
法海や何を記うもの  
三月より海記より舟



わが御社より  
きこえり  
住吉に  
あすもわが御社

序

のちと海景波  
ゆき  
おのちと海景波  
せつと海景波



名勝國絵也車馬杖  
履清多只此か付  
て几席法あいに終勝  
幽邃乃にるまや

之公乃にるまや  
中塊以或に古今  
事蹟に満るに集て  
顔人強中此にるま



すくはち或冬を遠淡  
近濃の墨妙びあ  
けろ寂藤詠吟の  
便とすはむ（橋本）

ろりもえり岸の姥松  
りろきえにや月夜世  
とけさるゝいふと  
志ろちかり



寬政七年上元日

藤波三位寬忠郷

送少玄書

序

凡例

○此書、住吉大小の祭事年中乃行事派悉く包記して  
他邦遠境の人に當社祭事の多きと神事の美なりとを  
あかしせんとす

○古祭禮神幸能大成との圖をあつて小なるもの  
事記しゝ圖を除く

○祭禮の圖は神殿とて執りふもありと宿院或ハ舞臺等とて行ふもの其祭事ハ其所とて行ふと圖にハ  
てゝ初巻本社乃全圖は照合を見ゆ

○年中小祭の行事といふにあつては、これに社役人等乃ち執行の故實もハ事無くして、これハ皆老々といふに決編の備へ出で事派なきこと

○住吉街道の寺院社頭ハちかゞこのまゝといふ元來住吉乃名所を集―書成故に他の寺社におおきハ圖をいひ



のうそ其事跡をうそとせぬ

○巻中の繪と現在を画く有過ぎぬ画く有文よりて繪く有古よりて画く有画み寄て画く有抑現在よりたると住吉神社の圖より街道の數丁のめき是より過ぎ去りて車返りの櫻顯家卿安倍野合戦等の圖を云文と云ふは茅菴の一休和尚文徳帝住吉幸行のとき詠曰古よりあるははとより里はをを行長居り里の名をば頼まん等の圖を云絵よりて画くは俗の所謂繪と云ふ言へるは是より繪の本意を尊ぶ事の内無紋の黄衣白衣よりくもともくを紋を画くは障よりて潤色よりたり競馬早乙女の頼りの巻を開く人ばすゝん見て用捨をや○住吉社ふちをある寺社その外村里舊跡一處もさへにほせぬをこれより次編を俟て合せ見よ

住吉名勝圖會卷之一目錄

神功皇后三韓征伐之圖 御前崎之圖

住吉本社之圖 神宮寺之圖

大海神社之圖 奥天神之圖

住吉街道之圖 今宮札之辻之圖

景時詠和歌圖 東之大鳥井之圖

天下茶屋之圖 三文字屋座敷之圖

以上



南郊三十里探勝  
愧余癡欲謁歌神  
廟徘徊謗賦詩

筱應道



住吉名勝圖會卷之一

日本書記第一曰伊弉諾尊既還乃追悔曰吾前到於不須也  
凶目汚穢之處故當滌去吾身之濁穢則往至筑紫日向小戸  
搖之憶原而拔除焉遂將盪滌身之所汚乃興言曰上瀨是甚  
疾下瀨是太弱便濯中之瀨也因以生神號曰八十扛津日袖  
次將矯其枉而生神号曰神直日神次太直日神又沉濯於海  
底因以生神號曰底津少童命次底筒男命又潛濯於潮中因  
以生神號曰中津少童命次中筒男命又浮濯於潮上因以生  
神號表津少童命次表筒男命凡有九神矣其底筒男命中筒  
男命表筒男命是住吉大神矣





住る三所の老神  
 奉る伊弉諾海日  
 國小戸の鏡原之松  
 神号と底海男中男  
 表海男とす  
 神功皇后御國は死  
 る時此御神海底より  
 出現軍の魁として  
 三韓と手取 倭朝の  
 とた現世のいひする



其處の神皇居よ  
 道へ海と吾和魂の太  
 津の瀬中倉の長峽よ  
 居之しうて性未乃  
 船と思ふこのいし  
 けりとの位一の津  
 鎮座しり  
 四社の御神と  
 奉りてす  
 神功皇后と  
 候あり奉る  
 かり



旧事紀曰其底津少童命中津少童命表津少童命此二神者  
阿曇連等齊祠筑紫期香神底筒男命中筒男命表筒男命此  
三神者津守連等齊祠住吉三所前神  
古事紀曰底筒之男命中筒之男神上筒之男命三柱神者墨  
江之三前大神也

同卷曰神功皇后以其御杖衛立新羅國主之門即以墨江大  
神之荒鬼為國守神而祭鎮還渡也

神書鈔云住吉大神其荒鬼在筑紫之小戸和鬼者神功皇后  
征三韓之時陰臨玉體而顯坐攝州

風土紀曰所以稱住吉者昔息長足比賣天皇世住吉大神現

出而巡行天下覓可住國時到於沼名掠長岡之前乃謂斯實  
可住之國遂讀稱之云真住吉國乃是定神社今俗略之直稱  
須美乃叡

延喜式卷第三曰凡諸國神社隨破修理但攝津國住吉下總  
國香取常陸國鹿嶋等神社正殿廿年一度改造其料便用神  
稅如無神稅即充正稅

續日本後記卷第八曰仁明帝承仁六年八月己巳攝津國住  
吉神祈船船歸着

東鑑云治承四年八月十六日丙申自昨日雨降終日不休止  
為明日合戰魚為被始行御祈禱住吉小太夫昌長奉仕天胃



住吉濱邊之圖

風雅集 後言

信乃の

おふく

深きよみ

月や花も

もよそ

東庭

昔時攝都勝

今遊住吉濱

波浸紅日湧

樹接白雲鄰

左臂控南地

前頭階北津



忌竹

浦峽長

一ノ三

漁郎沽海賈  
行客祭江神  
夙抱遠遊志  
每羞株守身  
何浮滄海上  
快活祛胸塵

あふの

草橋

あふの

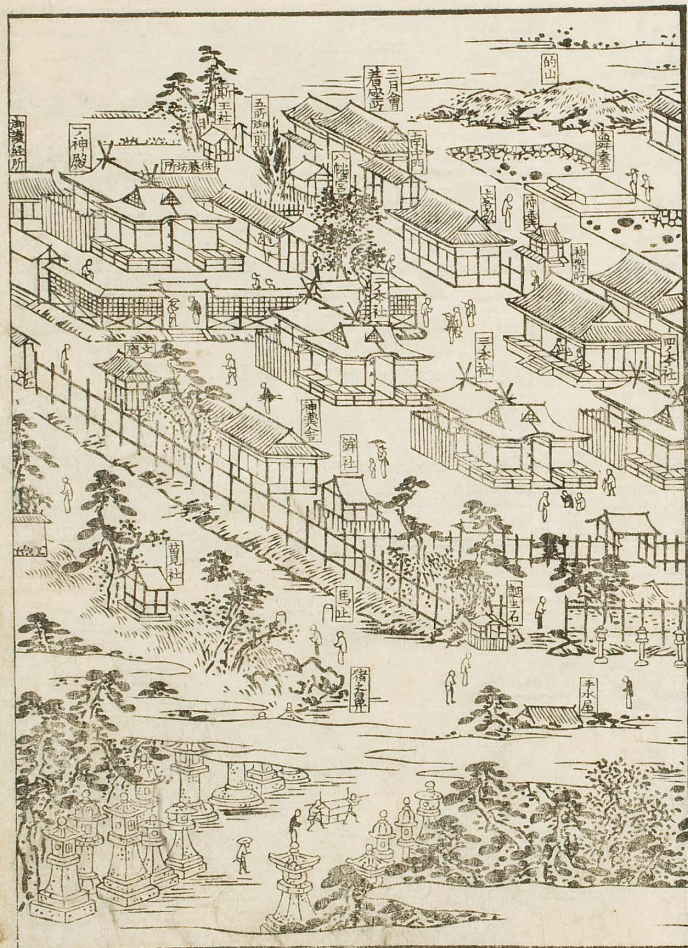
宗祇

西ノ大鳥井  
馬場先節

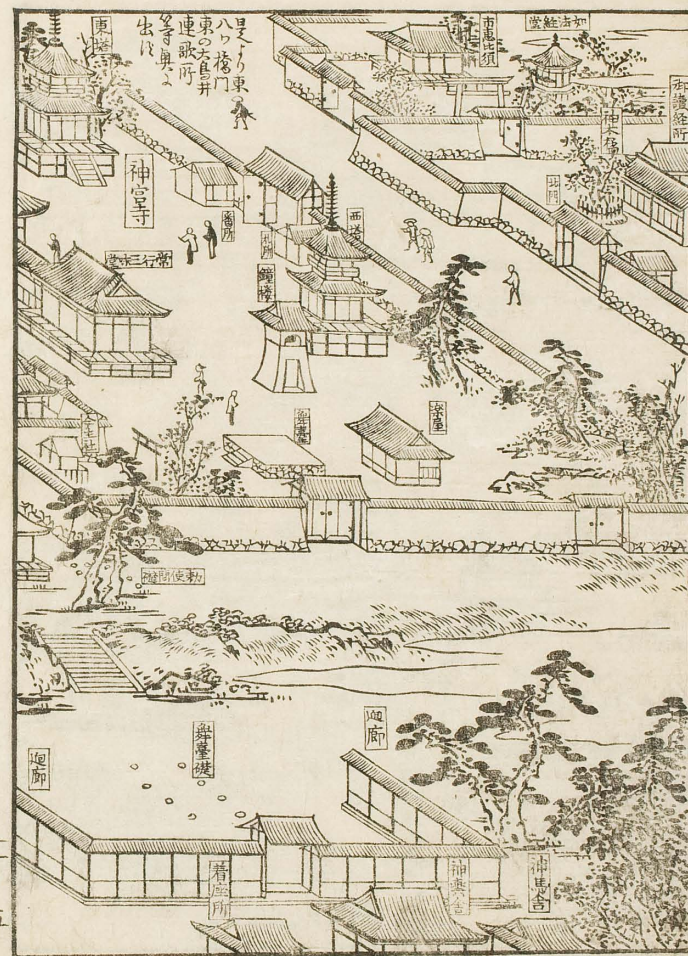
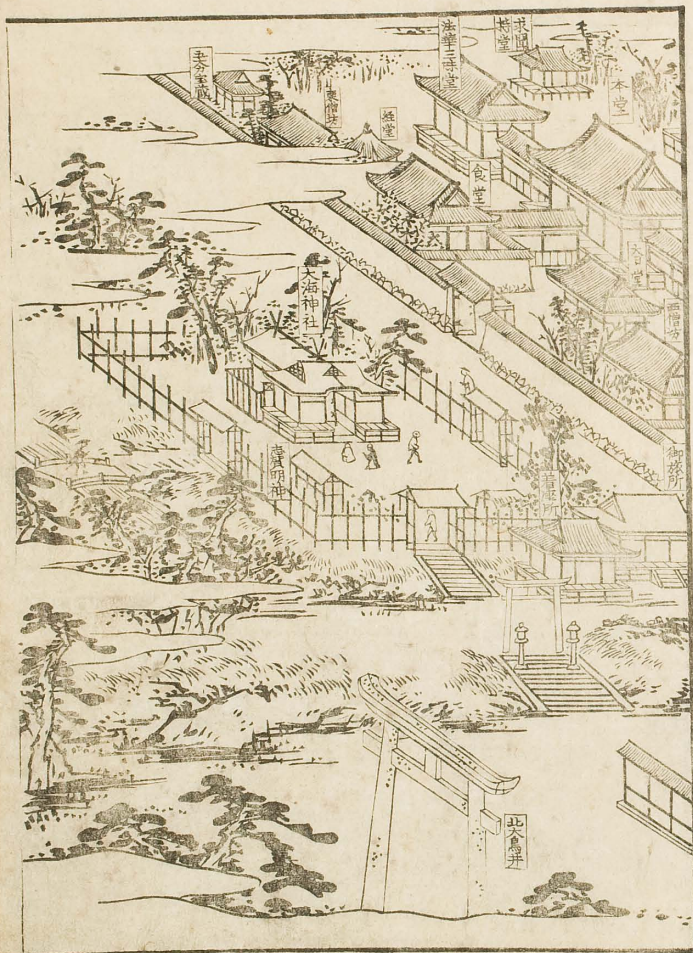


内川











守津國  
朝夕  
えれいせ  
ほろの  
あや  
ふふふ  
昌叱  
ほろのねを  
わいの下海  
おろし  
まをさう  
瓢水  
おろし  
常なり  
くもの月





舟遊記



天下茶屋村と  
 村する本を往  
 昔豊巨秀吉公  
 堺政所入御  
 時此茶店として  
 御休足りあり  
 紹鷗をきこ  
 て所茶をきこ  
 りさん一とり天  
 下茶屋の名有  
 紹鷗の御跡を  
 今も紹鷗の森  
 として尚村あり  
 其時の茶器を  
 殿下入御の亭今  
 御座り園を  
 後編と出ん



紹鷗森天満宮  
 鳥井の額寶鏡  
 寺乃御宸筆  
 御本帝々天下  
 茶屋小兵衛が  
 家ニ蔵む

紹鷗之森



子安天神社

子安石  
又モタシ石  
トモ

子宮

勝間新家







天明土寅の禱  
 火の祭乃會  
 傳しあひて  
 之廟衛道人  
 ともて  
 好人もくち  
 何れもくち  
 ずんぐもくち  
 びんぐもくち  
 びんぐもくち  
 あくもくち  
 北海三島  
 あくもくち  
 人觀ふらん  
 かくもくち  
 くもくち  
 くもくち

壬寅初春廉齋



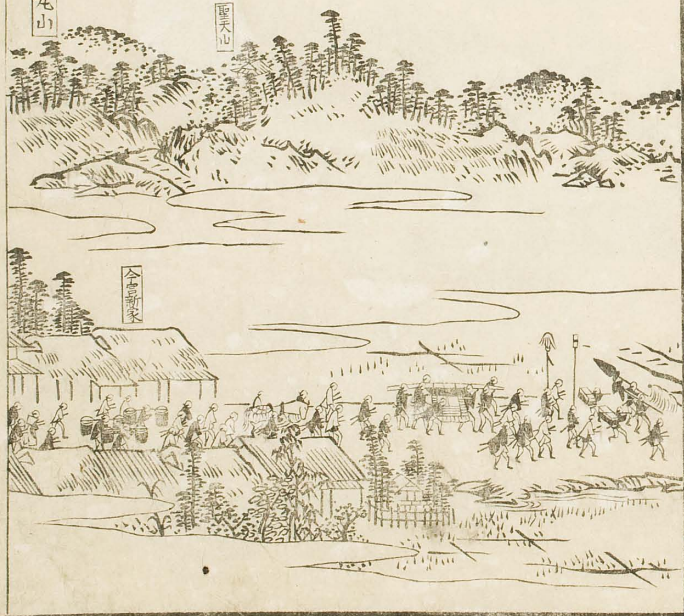
道人傲自然菴  
 故車閑茶遊於  
 墨江岸松樹林  
 中予一日與  
 焉

片猷

曾聞自在古風流  
 茶味禪心一擔頭  
 不料尋君松樹下  
 風流自在此中遊  
 城南遠赴舊道  
 小昂掛松汲石泉  
 鴻漸由來誰得似  
 紹鷗古跡未全懸  
 掃山懸古雨下損  
 待來人汲得清瀆  
 水未曾染世塵

丸山

聖美山







應廉齋道人  
招至墨江古  
松岸席上觀  
山道人有詩  
次其韻呈主  
人  
應道  
墨江東地岸設  
席迎同人藉艸  
燒松子風清玉  
屑塵  
掛瓢為照導曲  
徑不遲人清風  
林下茗總無一  
點塵  
紫火乃草を  
志すてかる



さうある  
あゝく乃  
おしきかる  
うん けい  
すあね  
し







地府祭武衛自取御鏡授給昌長

同書曰建名六年四月廿七日壬午將軍家以梶原平三景時  
為御使令奉幣住吉社給被奉神馬今夕景時參着社頭註和  
歌一首於釣殿之柱

我君乃々向の駒を引連れてけふまきこきわめし

同書曰承元三年七月五日丙申將軍家依御夢想被奉二十

首御詠歌於住吉社内藤右馬允知親為御使

位の江乃いつくもりの神とて行もくも如くやん  
夫木 俊成 多治真人

片々みち玉のみめ、神あふまがひて、つるふ菜のこま  
うつしと沸きふゆりれ、位名の神のま成ねの千景



釣殿  
今墨に山の下  
墨江殿とて神館の  
と御殿有、其南よ  
うと御殿あり  
古記に見



攝津國一宮正一位住吉之神

有佳吉郡住吉神稅二千六十石境內東西九町南北四町四方鳥井之內東西百九十間南北百八十間延喜式神名帳云住吉郡之神二十二座曰住吉坐神即座大依羅神社即座神州津太歲神社中臣須牟地神社神須牟地神社捨原神社須牟地曾禰神社止柙侶支比賣命神社赤雷比賣命神社天水分豐浦命神社努能太比賣命神社太海神社二座多弑神社船玉神社生根神社也矣今之猶攝社也三十六社委見三之卷矣神主号七家曰板屋曰拍曰津守曰太宅曰神奴曰木領曰高木是也津守氏此為上位猶之而以是社勢也社役人二百六十有余人畧其姓名

天慶以前既被奉此神正一位明白也

第一之神殿底筒之男命

第二之神殿中筒之男命

第三之神殿表筒之男命

第四之神レ殿ニ神ニ功ニ皇ニ后ニ

諱息長足比賣命人皇十  
四代仲哀天王之御后

攝津國住吉郡住吉又鎮座なりと神功皇后攝政十  
一年辛卯四月廿三日なり今に至りて凡一千五百有余年  
公より宮居御造營なりより車連綿と絶に當社に奉  
幣諸願を祈り感得たりと事舊記の如く  
くあるに及ぶなり和奇と奉連句試捧け神宝

くまのふいふに 和奇と奉連奇紙捧け神宝



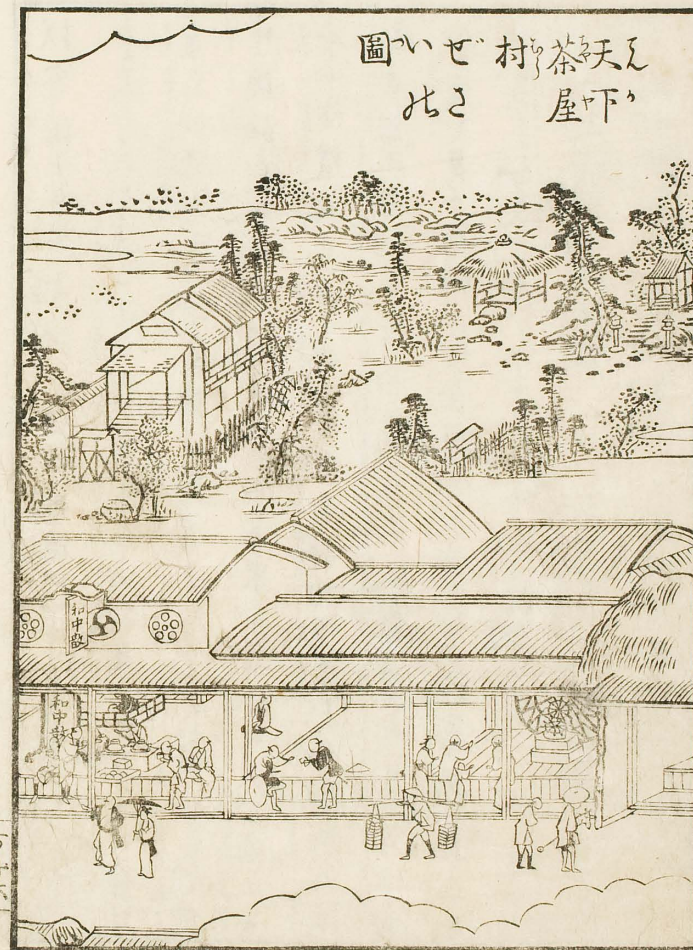
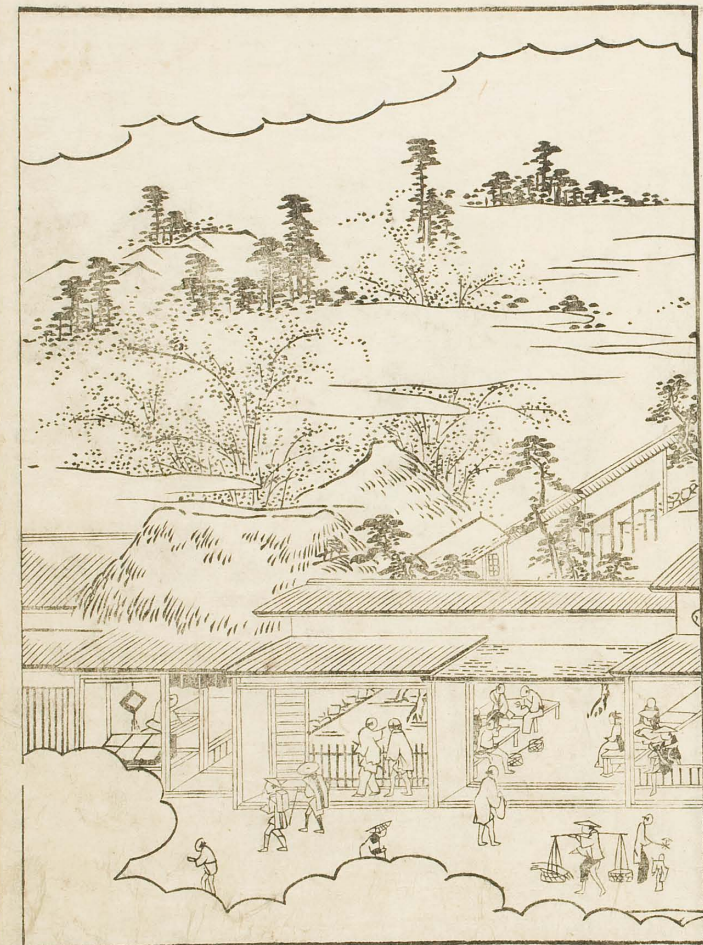
東之  
大鳥井

是より  
東、三町余津土寺  
十八町田邊庄  
南、三町余津守寺  
五町余若松社  
西、直、大海神社  
神宮寺  
市恵比須社  
住吉大神北之門  
北、直、安部野街道



我寄附する事今猶少うに神徳のいづきと人のいづ  
とろがれんば爰に不言祭禮年中の行事ともいふに神功  
皇后の御時より今又傳り侍りよとていふ奥に記に就  
中渡海の船舶風波のいひなき事と當社に祈り海上安  
全の守護神と崇奉し宜哉神功皇后記御詠宣し我  
和龜服王身而守壽命荒龜為先鋒導師船云云此御  
詠宣と見るに海上安全の御神のいひに軍陳壽命と  
守護しよと御神かりと一乃御詠宣し  
吾无幹以正直為幹  
吾无智恵以忠孝為智恵  
吾无德以慈悲為德  
吾无奇得以無事為奇得







すゝ明神の御奇み

いよの國宇和の郡乃魚まも我をいかなるすゝと

○清輔と奥義抄袋草帛等々住吉四の神殿を玉津島

明神かりとあり是を和奇三神の御事より附とる

説成下史和奇三神よりなる住吉の三を神是かり

人磨赤人衣通姫と和奇三聖と稱奉る四の神殿と

姫神成る故に此説はとけりてなりす神社考

よ云住吉第一之宮天照太神第二之宮宇佐明神田霧

第三之宮中筒男第四之宮神功皇后なりと見えたり

されども舊事記古事記日本記延喜式等の旧きあみ

ふもかつ見えいす人の宣命なり住吉三所太明神と

ありて四の神殿の御事之見え侍る何れ其説より

く平き事とわび

○柞津の國住吉郡住吉の御社と奉るを西を滄海漫

漫とて霧みゆる船舳の淡路明石の津と見えかく

東を高山峨々として金峯かつきなりと見えかく

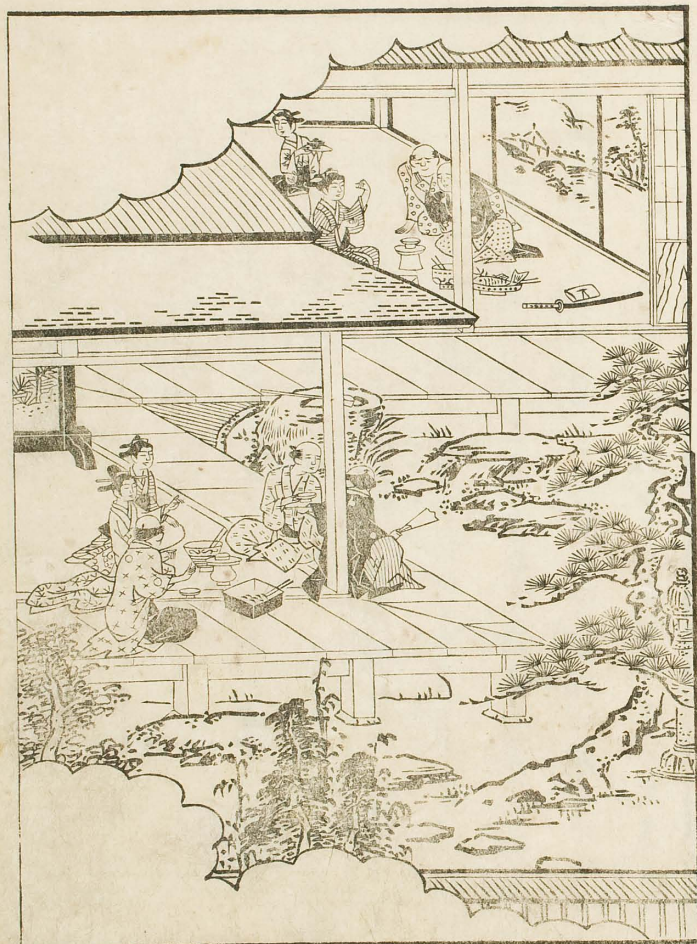
たき大和河内と手みとるごとく掘泉の咽唯とる

て俣伯もゆきひ農民も往來に土地の産する物の胡子

花壺蘆花と日とまぐり又忘州忘見かんと和奇者

流の秘する事とておぼけに語り及もむり贊へて





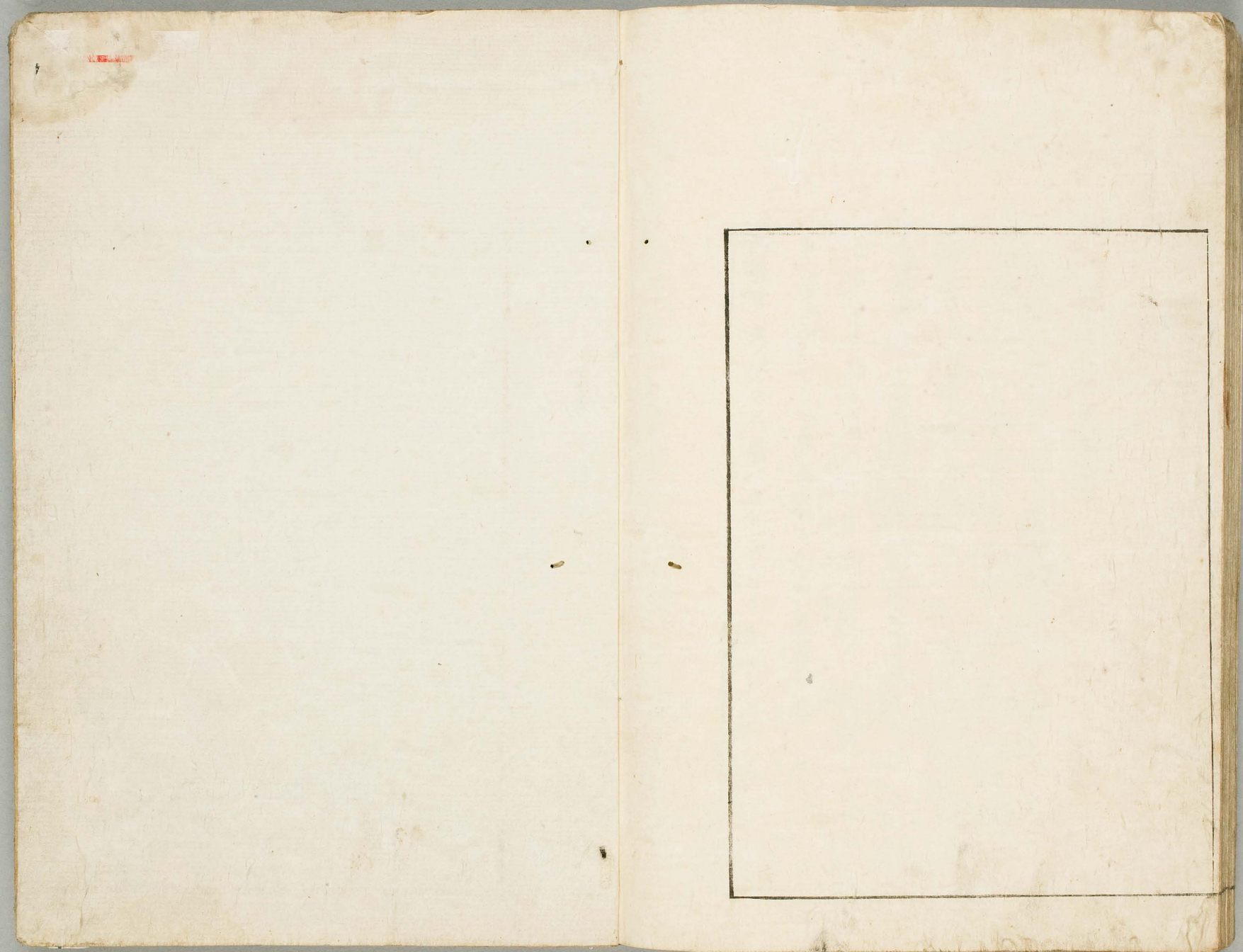


衣なり其外瓊蓋鳥鏡銀朱 白粉 鬼せん鯨の  
ころや割刀と堺の銘みづあつくま里小野の油を  
やすき事とて夫本集も

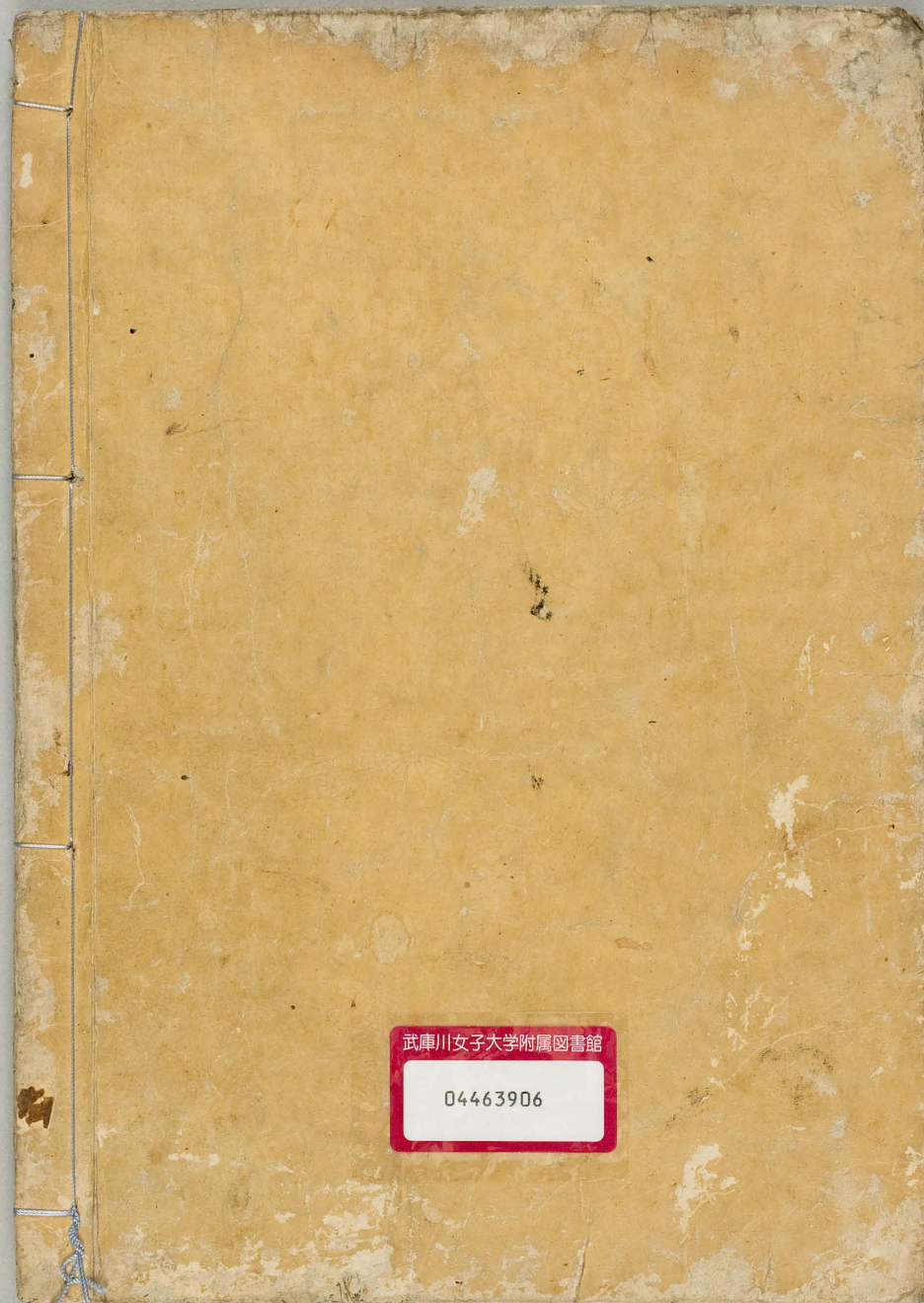
待月や遠里小野の油賣つきいと鈴の皮とりのあめ  
其の芥子と麦葦と其數多し湖夕晴嵐 奥天神  
秋月 津守寺晚鐘中村夜雨 我島歸帆大仙陵暮雪  
海船夕照 御田落馬此里の俗住吉の八景とて四時の  
ぢりめは爰も盡に久しくなりぬと詠ぜ 岸の姫松と  
今の街道より少し東と方八丁が泡松の林とあつて  
残まるどむいの事もやりひちりてやりまれ大鳥井より

西の方馬場の松原へ五丁み余り高きところ 長峽の橋と  
とせざる内川かん浪華津と續きて爰も詣る川舟の所せ  
く引なへたる系竹の音絶る階々く濱邊とてあや  
の家居立は 糸蛤の羹ゆきのふも此所の名物とて爰  
も詣る人賞し侍る社頭とて國より献し奉る石と  
うらうやがうらうらく立御燈の光り 聚然と照りて松  
風浪の音もふみふて實も津の國の一乃宮と崇め奉る  
もむかりとやめぬ









武庫川女子大学附属図書館

04463906